



目次

2ページ …………… 梶原消防団が最高栄誉章特別表彰「まとい」受章・秋の火災予防運動

3ページ …………… 高規格救急自動車更新・救助資機材搭載型小型動力ポンプ付水槽車配備

4ページ …………… 第50回消防救助技術四国地区指導会・ドローン活用消防訓練



## インフォメーション 火事と救急は消防まで!!

- |                         |           |              |                    |
|-------------------------|-----------|--------------|--------------------|
| ■ 消 防 本 部               | 〒785-0031 | 須崎市山手町1-7    | TEL (0889) 43-1272 |
| ■ 須 崎 消 防 署             | 〒785-0031 | 須崎市山手町1-7    | TEL (0889) 42-0119 |
| ■ 中 土 佐 分 署             | 〒789-1301 | 中土佐町久礼6653-1 | TEL (0889) 52-2319 |
| ■ 津 野 山 分 署             | 〒785-0502 | 津野町北川2589-1  | TEL (0889) 40-1099 |
| ■ 葉 山 出 張 所             | 〒785-0201 | 津野町永野265-1   | TEL (0889) 55-2330 |
| ■ 四 万 十 清 流 消 防 署       | 〒786-0007 | 四万十町古市町5-1   | TEL (0880) 22-0001 |
| ■ 四 万 十 清 流 消 防 署 西 分 署 | 〒786-0521 | 四万十町津賀177-12 | TEL (0880) 28-5525 |

☆お問い合わせは、お近くの消防署までお願いします。

# 日本消防協会最高栄誉章「まとい」受章

令和4年3月4日、東京都のニッソ  
ヨーホールにて、令和3年度第74回日  
本消防協会定例表彰式が新型コロナ  
ウィルス感染拡大を考慮し、規模を  
縮小して開催され、梶原消防団が特  
別表彰「まとい」を受章しました。

特別表彰「まとい」とは、昭和54年  
に創設された表彰制度で、全国に約  
2200ある消防団の中から、毎年  
10消防団に対し、秀でた活動を展開  
し活躍が顕著な消防団に対してのみ  
授与される最高栄誉章です。



受章の様子

この表彰では、表彰状とともに、全  
長2.1m、重さ15kg、上部は純金箔、下  
部は純銀箔仕上げの「まとい」が授与  
されました。



梶原町役場に展示している「まとい」

# 秋の火災予防運動

令和4年11月9日～11月15日の間  
全国一斉に秋の火災予防運動が実施  
されます。

この運動は火災の発生しやすい時  
期を迎えるにあたり、住民の皆様  
に防火防災に関する意識や防災行動力  
を高めていただくことにより、火災  
の発生を防ぎ、万が一発生した場合に  
も被害を最小限にとどめ、火災から  
尊い命と貴重な財産を守ることを目  
的としています。

今年度の全国統一防火標語は  
『お出かけは マスク戸締り 火の  
用心』

です。皆様もこの言葉を胸に刻み、火  
災予防に努めましょう。



火災予防運動期間中のパレードの様子



ジュニア消防団の放水体験





更新された高規格救急自動車

令和4年3月1日、高幡消防組合四万十清流消防署の高規格救急自動車を更新しました。

高度な救急救命処置を行うための最新の除細動器や可搬型人工呼吸器、自動心臓マッサージ器を搭載しています。また、昨今の新型コロナウイルス等の感染症にも対応するため、化学防護服、オゾン発生器も搭載しています。更にストレッチャーには最新の防振装



救急車内の様子

置を装備し、走行時の振動緩和を行うことで、患者さんへの負担を軽減します。赤色回転灯には3段階の点滅モードを搭載したシステムを採用し、明るさや光の動きを変化させることで安全な走行と近隣住民への配慮を高めました。

今後も救急体制の充実を図り、救命率の向上と住民の安心安全の確保に努めていきます。

## 高規格救急自動車更新



配備された車両

令和4年3月25日、高幡消防組合津野山分署葉山出張所に救助資機材搭載型小型動力ポンプ付水槽車を配備しました。

この車両は従来、葉山出張所で運用していた水槽車と救助資機材搬送車の老朽化に伴い、2台の機能を1台に集約しています。火災に対しての消火活動はもちろんのこと、交通事故をはじめとする救助現場に対応できるように多くの救助資機材も搭載

## 救助資機材搭載型小型動力ポンプ付水槽車配備



火災・救助対応の資機材を搭載

しています。車両を1台にすることにより少ない人員での現場活動において機動性や機能が高まり、今まで以上の迅速な対応が可能となります。

今後も車両の特性や性能を遺憾なく発揮できるよう訓練を重ねていき、火災や救助、更には多種多様化する近年の災害に備え、地域住民の生命身体及び財産を守るよう活動していきます。

## 第50回消防救助技術四国地区指導会

令和4年7月23日に香川県消防学校(高松市)において第50回消防救助技術四国地区指導会が開催されました。

この指導会は消防の救助活動において必要な体力、精神力、技術力を向上させるとともに四国地区の消防救助隊員が一同に会し競い、学ぶことで住民の消防に寄せる期待に力強く応えることを目的としています。高幡消防組合では陸上の部で、ロープブリッジ渡過、ロープブリッジ救出、水上の部では基本泳法、複合検索、溺者搬送の競技に出場し、日ごろの訓練の成果を発揮することができました。今回得た技術を実際の救助活動に活かし、より一層の救助技術の向上を目指していきます。

来年度も香川県消防学校(高松市)において第51回消防救助技術指導会が開催予定となっておりますのでぜひ会場にお越しください。



水上の部



陸上の部

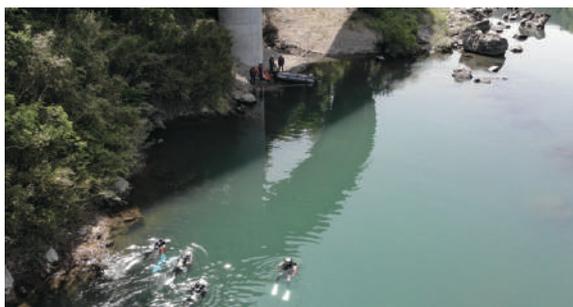


### 「ドローン:マビック2」

サーマルカメラ・内蔵スピーカー搭載

高幡消防組合では行方不明者の捜索や火災調査などにドローンを活用しています。  
ドローンとは無人航空機の総称で、小型のヘリコプターのようなものです。機能は多様で、航空画像を動画で撮影したり、ドローン内蔵スピーカーから声掛けをしたり、サーマルカメラによる温度別検索ができたりと様々です。  
そのドローンを使用した訓練を定期的に実施し、技術向上に取り組んでいます。

## ドローン活用消防訓練



### 「水難事故を想定とした、潜水隊との連携訓練」

要救助者を上空より発見し、内蔵スピーカーにて潜水隊へ居場所を伝達し救助しています



◀サーマルモード

ノーマルモード▶



### 「サーマルカメラによる要救助者捜索訓練」

ドローンにて上空から撮影し、温度変化を目視で捉えながら要救助者をいち早く発見できるよう捜索します。

